

【中学校第3学年の実践】

1 主題名

より高い目標を設定し、やり遂げる強い意志 【A 希望と勇気、克己と強い意志】

2 教材

不屈の開拓農民・山岳画家 坂本 直行（北海道版道徳教材（中学校用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

「より高い目標」とは、自分の現状に甘んじず現実をよりよくしようとする気持ちから設定するものである。現実との関わりの中で考えられたものであり、現実離れしていることもある夢とは違うものである。自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにする。しかし、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することもある。困難や失敗があっても、それを乗り越え最後までやり遂げようとする強い意志を養うことが大切である。

第3学年の指導に当たっては、目標の達成には何が必要かを考えたり、自らの歩みを自己評価したりすることを通して、達成できたときの成就感や満足感を味わわせるとともに、目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感させることを通して、困難や失敗を乗り越え、やり遂げようとする実践意欲や態度を育てていきたい。

(2) 生徒の実態【生徒観】

困難や失敗を乗り越え、やり遂げようとする実践意欲や態度を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では、次のような指導を行っている。

①国語科「文化をつなぐ」

困難や失敗を乗り越え、やり遂げようとする実践意欲や態度を育てるために、読むことの学習において、興味のある人物の生き方や人生等を描いた伝記を読む指導を行っている。取組の結果、様々な人の生き方に学びながら、生涯をかけての理想や目標をもち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けようとする姿が見られるようになってきている。

②特別活動「学校行事(体育的・文化的行事)」

困難や失敗を乗り越え、やり遂げようとする実践意欲や態度を育てるために、学校全体や学級単位で具体的な目標を明確にし、各行事が終わると自己の取組について振り返る時間を設定し、指導を行っている。

困難や失敗を振り返るだけでなく、互いの取組のよさを認め合うことで、達成感や満足感を味わい、次の目標へ挑戦しようとする姿が見られるようになってきている。

以上のような実態から、今後は道徳科の授業において、目標に向かってやり遂げようとする強い意志について、様々な先人に共通する心構えについて考えさせたり、自分との関わりで見つめさせたりする指導が必要である。

(3) 教材について【教材観】

困難や失敗を乗り越え、やり遂げようとする強い意志について考えさせるために、今までと異なる生き方の選択を決意したときの直行の立場について、「百姓はやめたが俺は負けないぞ！」という直行の言葉に自我関与し、話し合いを行うことで価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のとおり設定する。

1 「◎中心的な発問」の場面

→直行が「百姓はやめたが、俺は負けないぞ！」と言い、新しい目標に向かった場面

◆意 図：直行がどのような思いで、「百姓はやめたが、俺は負けないぞ！」と言ったのか問うことにより、目標を変える決意をした直行の気持ちや、開墾と同じ気持ちでやり遂げようとする強い意志について想像することで価値理解を深められるようにしたい。また、互いの考えをペアやグループ等で交流することにより、多様な考えに触れ、人間理解や他者理解を踏まえた自己理解につなげさせたい。

直行の思い：自らの人生の足跡が刻まれている原野を離れ、絵を描くという新たな目標に向かっていこうとする強い思い。

2 「○基本発問」の場面

→直行が「百姓をやめる」と宣言した場面

◆意 図：直行に、「百姓をやめる」と決心させたものを問うことにより、開拓が何年かかってもうまくいかないことや、家族を養わなければならない現実等、直行が置かれた困難な状況を多面的・多角的に捉えることで、その後の「百姓はやめたが、俺は負けないぞ！」と言った直行の強い意志についてより深く理解させたい。

直行の思い：畑仕事をしながら、たくさんの絵を描かなくてはならないことや、家族を養わなければならないという葛藤。

4 ねらい

坂本直行の生き方に触れることを通して、目標に向けて取り組む先人の強い意志を知り、困難や失敗を乗り越え、やり遂げようとする実践意欲や態度を育てる。

5 学習指導過程

| | ●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応 | ・指導上の留意点 ■評価 | 「考え、議論する道徳」 に向けた工夫 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | ● 目標を設定する取組について発表する。 ○ 様々な場面で目標を設定するときどのようなことを意識しますか。 ・努力すれば達成できそうな目標を設定する。 ・自分にとってやる気が出るような目標を設定する。 | ・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分の目標を立てる場面について想起する場を設ける。 | 【工夫①】 ・生徒全員の思考を促すため、ペアで交流を行うことにより、一人一人に本時のねらいとする道徳的価値を明確に捉えさせる。 |
| 展開 | ● 教材「不屈の開拓農民・山岳画家」を読み、話し合う。 ○ 直行に、「百姓をやめる」と決心させたものは何だろう。 ・開拓が何年かかってもうまくいかない現実。 ・家族を養わなければならないこと。 ・個展の成功。 ・自分の絵が認められたこと。 ◎ 「百姓はやめたが、俺は負けないぞ！」と言った直行の気持ちはどのようなものだったのだろう。 ・農場経営の目標が達成できなかったことが残念。 ・新しい目標に向かって、開墾と同じ気持ちで頑張りたい。 ・負けたわけではない。違う方法で勝つんだ。 | ・直行が置かれた立場に共感することで、人間理解を深められるようにする。 ・目標を変える決意をした直行の気持ちを話し合い、強い意志についての価値理解・他者理解を深められるようにする。 | 【工夫②】 ・年表を活用し、直行の生涯全体を捉えることで、困難な状況や、新たな目標に向け、決心したことの偉大さなど、ねらいとする道徳的価値に関わる気付きを促す。 【工夫③】 ・直行の決心を後押しした理由を考えさせることで、価値理解や他者理解を深められるようにする。 |
| | ● 自己を見つめる。 ○ 人生の目標を達成するために、必要な考え方とはどのようなことだろう。 ・あきらめない気持ちを持ち続ける。 ・失敗を生かして次の目標に向かう。 ・前向きな気持ちで考える。 | ・目標に対する自分の生き方を振り返り、自己理解を深めさせる。 ■ 自分の人生において困難に立ち向かい、前向きな気持ちで生きる大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。 | 【工夫④】 ・ホワイトボードを活用し、グループや全体で考えを交流することにより、互いの考えを認め合い、自己理解が深められるようにする。 |
| 終末 | ● 教師の説話を聞く。 ※教師がこれまでの経験から失敗や困難を乗り越え、達成感を感じたエピソードを話す。 | ・目標の達成を目指し、強い意志をもって、やり遂げようとする態度が育まれるようにする。 | 【工夫⑤】 ・ワークシートに振り返りを記入させ、評価の資料として蓄積する。 |

